



発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065  
 編集 早川 清志  
 題字 島崎 洋路

### 『木の個性を知り使い分ける』

通年コース見学の日、午前中は有賀建具店さんを訪問しました。現在、親方の恵一さんと四人のお弟子さんとで建具や家具を作られているとのこと。時代の流れなのでしょう



伐採用の鋸、「2 抜きマドノコ」というらしい

か。やはり全国的には建具屋さんには減っているとのこと。でも、国産の無垢材を使うての作りは、今の主流にはなれないだろうけど、なくなることはない、と話してくださいました。経営的に成り立た

せるのは難しいけれど、「やっている本人にとっては、とても面白い仕事です。からね」と嬉しそうに笑顔に、私たちもホッとしたのでした。

北海道から中部地方までの百種類くらいの材のストックがあり、それらの説明を聞いて、眺めているだけで楽しい時間でした。それでも日本全土には四百種以上の樹種があり、まだまだほんの一部、というお話でした。平均して五年くらい寝かしてから使うそうですが、曲がっていても、短くても、どんな木でも、今までに使えない木はなかったそうです。手もかかりますし、これは決して簡単なことではないと思うのですが、親方のこだわりでしょうか。家具やたんの値段も伺いましたが、不思議にそれほど高価というわけではないんですね。ちょっと奮発して、作ってもらい、長く使いたいものです。

今までに七人のお弟子さんが独立されたそうですが、これからも、どんな木でも使える職人を育てたい、とも言われました。とても美味しい



奥様手作りのケーキとコーヒー、暖かなペチカと親方の楽しいお話し。約束の時間ぎりぎりまで居座り、有賀建具店さんを後にしました。長時間ありがとうございました。

外に出たら肌寒く、空から雨がポツリ。お弁当は大



芝高原の芝生の上で、の予定だったので、さて、どうしよう。そこに女神が現れて、「我が家が近くです。どうぞ」

で、こちらもペチカのあるお宅で、無垢のダイニングテーブルを囲んで、テレビ信州で、森林塾を取り上げた番組の録画を見せてもらいながら弁当を使う。木の香りがする長坂家は主と同じ、素敵な家でした。きつと晴れた日には南アやハツが一望でしょう。

午後は木材市場の見学でした。長野県森林組合連合会の伊那木材センターで、小林所長さんの市場の仕組みや入札方法などのご説明を聞き、

その後、極山を見て模擬入札です。円高、株安、債権安の三重苦が続く日本経済のなか、材価も安値安定のどん底ですが、今日の伊那市場は熱かった。金井製材

種番	樹種	長さ(m)	末口(cm)	本数	材積(m3)	塾落札価格	落札業者	実際の落札値
①	ケヤキ	3.0	36	1	0.389	45,000	山田工務店	28,000
②	ヒノキ	3.0	14	14	0.826	25,000	は建具店	20,000
③	カラマツ	4.0	20~34	9	2.452	24,000	金井製材所	10,000
④	アカマツ	4.0	38~42	2	1.284	25,000	"	20,000
⑤	ヒノキ	3.0	16~18	14	1.218	25,000	"	23,000
⑥	ヒノキ	4.0	30	1	0.360	42,000	は建具店	30,000
⑦	クリ	4.0	26	1	0.270	50,000	だるま木工	18,000
⑧	スギ	4.0	30	1	0.360	30,000	上沼建築	14,000

平成23年10月14日公売明細書

の若旦那はカラマツやヒノキの植を景気良く落札していましたが、ケヤキやクリなど広葉樹の一本物も、結構な値がついていました。それでもヒノキの柱材は、計算すれば一本二千元程度ですから、四十年、五十年育てて、丸太って本当に安いものです。この市場は十万円持参すれば競売参加も可能です。

これから家の普請をお考えの方は、ぜひ地元の材木を使って建てられるよう、切にお願いいたします。小林所長さん、お忙しいなか、ありがとうございました。



『カラマツ保育の先駆者』

一日目の15日(土)は朝から雨。なんだが今年には雨が... 伊那市の年間降水量は1400ミリ程度なのです... 今年9月末で平年を超えた模様で、塾に龍神様が紛れ込んでいるのかな?

予定した枝うちの現場にはいけませんでしたが、その代わり、保科先生のお話をじっくり聞くことができました。昭和36年に本格的に植林を始めたので最初のカラマツ林はもう50年を超えました。一見の価値ありの立派なカラマツ林です。

参加者/赤羽さんご夫妻、上沼さん、金井さん、関口さん、長尾(景)さん、長尾(謙)さん、鍋島さん、瀬田田さん、両角さん、山田さん、宮本さん、園田さん



保科先生の鉈はヒゲが割れる

専門コース第三回開催の今回、駒ヶ根市の菅の台の傾斜地で二日間にわたって、ロープ、矢、トビ、チルホールやフェリングレバーを使ってヒノキ、サワラ、スギを山側に倒す練習をしました。時にかかり木にもなりましたが、ツルを離して根元をトビで落とし、かかり木を解消しました。

『できれば上向きに伐倒を』

専門コース第三回開催報告

伐倒の方向は、樹種や込み具合、立木の傾きや傾斜の大きさなどによってまちまちですが、できれば集材がやり易いように倒すに越したことはありません。谷側に集材する場合は、込んでいてかかり木になることを覚悟する場合、なんとかして山側に倒す工夫をしてみたいものです。

山側への伐倒は、伐採木を傷めにくい利点もありますが、もしかかかり木なってしまう場合でも、ツルを離して根元を引き落とせば、かかり木の解消も比較的容易です。もちろん、ツルを離れた時に、伐採木が谷に向かって滑り落ちる危険に対処する準備は、しっかりとっておかなくてはなりません。



サワラをチルホールで山側に引く

ヒノキは枝が強く、枯れ枝でさえも丈夫で、かかり木になりやすい樹種です。谷側に倒してかかり木を作ってしまうと、めったなことでは外れず、たいへん苦勞します。「ひよっとしたらかかるかな!!」と思いつつ谷側に倒してかかり木を作ってしまう愚は避けるべきでしょう。多少手はかかりますが、矢やロープなど、簡単な道具で山側に倒せるならば、そちらを狙うべきで、この場合は、かかり木になることをそれほどを恐れる必要はありません。

専門コース第三回開催 10月6・7日(木・金)

参加者/島谷さん、霜鳥さん、長坂さん 講師/早川講師 スタッフ/坂野

次回以降の予定

集中コース秋の部

11月10日・12日(木・土)

森林の込み具合を測り、間伐率を割り出す「測樹」という作業と、実際にチェーンソーを使って、立木の伐倒をしていただきます。さらに簡単な機械を使い、材を集める「集材」まで、森林塾のエキスの三日間です。

電卓、筆記用具が必要。伊那市横山の鳥崎山林研修所に集合。初日は9時までに受付を済ませてください。

専門コース 第四回開催

11月16・17日(水・木)

今年度の最終回になります。二日間の開催です。現場は伊那市横山の傾斜のある山林を予定しています。やや太いスギの伐倒に挑戦してみましょ。

8時30分 鳥崎山林研修所集合

通年コース第十四・十五回

12月9・10日(金・土)

移動式の炭化炉による炭焼きと、二日目は炭を取り出したのち、キノコの菌打ちです。炉に炭材を仕込み、うまく着火したらぶり縄の練習でもしますか?炭は持ち帰り可。夕方からは火の番をしながら忘年会を計画しています。一芸、差し入れ大歓迎。

リレー通信

森林塾に学んで



両角 一喜

KOA森林塾には、2009年11月に集中コースに参加させてもらい、今回は通年コースを受講する事ができました。次項について、寄稿したいと思います。

- 一、KOA森林塾の受講について
二、受講で感じた事
三、機械の整備について
四、塾での研修について

一、KOA森林塾の受講について
十年ほど前に家を新築した時に、憧れであった薪ストーブを設置しました。薪の調達を自前で何とかしたいと、家に有った中古のチェーンソーを使い始めました。古材の玉切りは、なんとかできました。70a程度の面積ですが、山林が有ります。薪用材の伐採で、危険を感じる場面を経験し、基礎を学ぶ必要性を実感しました。

近くにある、小さな里山を地域に開かれ親しみの有る場所にして整備を推進する活動が、「小泉山体験の森創造委員会」として、市と連携して開始されました。近隣地区としても活動に参加する事となり、役員が順番で回って来ました。会議や、整備に参加して、森林の知識を幅広く知りたいとの気持が高まりました。

また、市開催の地域役員集会の講演会で森林の現状や、課題などの講演を聴講でき、森林の多様性、間伐の必要性や未整備面積が多い事、防災面からの課題等を知ることができました。自分でも、取り組めそうな事がありそうです。

私の集落には、伝統的な行事「火とぼし祭り」が有ります。山中で開催する行事です。7mほどの高さに、木で三角錐形の檜を組み、枝や小木を隙間なく詰めて完成です。準備は、小学生、中学生のみで実施して来ました。鋸や鉈・鎌を使用して材料の調達、檜組用の杵木を藁縄で縛ります。杵木は、三段になり、上でも作業しますので、倒れないよう深く穴を掘り、自分でも上がる杵木です。真剣に確認しながら縛ります。小学生は、枝の運搬が担当です。道具の扱いができる中学生に早くなりたいと



思ったものでした。暗くなるのを待ち、檜に火をつけ、手には松明を持ち「ひとぼしちよいちよいあつまれや」と叫びます。子供なりの大声です。虫追いで、豊作を願う意味が有るようです。最近はずいぶん、PTAがお手伝いをしてるのが現状です。山林の道具を覚える機会も、減少してきています。

大人も同じかと思いません。生活の中から、山林との関わりが薄くなり、技能を習得できる場面や、指導できる人材も減少していると感じます。このような状況で、森林について勉強したいと思っていた所、ネットにてKOA森林塾が開催されている事、内容を知り申し込みとなりました。

二、受講で感じた事  
私なりにKOA森林塾に

同じで有ると確認できました。個人知識や技能の継続的なレベルアップを基本に、安全確保

自分、共同作業者の安全確保 危険の予知、リスクの減少対応 予知や、リスク判断も、知識や経験が必要 無理はしない。 必要な、安全装備を、正しく使用する。 体調管理 時には、作業中止の判断も必要。 楽な姿勢、手順、位置 見た目が、きれいな方法は安全作業になる。 次行程は、お客様である事 伐採は、集材の事を、集材は、運搬の事を、最終の木材活用を含めて、取り組む事 全体最適

業はどうしてあげれば良い

て、森林を育て活用する方法の入り口にたてました。塾の受講にて、基礎知識、技能を知り森林を育て守る事も、職業としてとらえる基本的な考え方は、

か、特に機械力や地形、人数、装備などにより、ネットワークとなる作業がやり易くなる工夫をする。 応用する知恵は、基本を守りながら経験と工夫により、各自身に付けて行く。 個人の体力・技能・装備・地形などにより、現場で最適判断をする。 技能習得は、5ゲンにて 伐採は、現場で現物の木を見、伐採後の現実を、原理、原則により確認して次に生かす。意図した事と、結果の差 備品の管理は、3定で 定位置・定量・定品目で忘れ防止

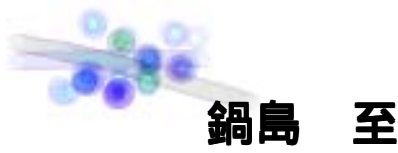
三、機械の整備  
チェンソーの整備等  
清掃は点検なり 不具合の発見、機械の知識UP  
五感で確認 音・匂い・振動・汚れ・削れ・普段との差(なんとなくも大切)、変化の原因を追究  
自ら知識・技能を高め 点検基準や方法を決め、自分で決めた事は守る。  
必要により点検、整備を依頼する。

必要により点検、整備を依頼する。

四、塾での研修について  
さまざまな、職業や経験の有る人と一緒に学べる事、自ら進んでの研修参加で有る事から、直接の講義や、実習以外の場面でも森林や木への想い、草木の名前などを聞ける場面も多く、新鮮な研修となりました。知識や技能に違いがあるメンバーでも、個々がレベルに応じた学びができる配慮がされ、楽しく、充実した研修になり開催日が楽しみで。研修で学んだ事を、直近ではストープの新確保に活用しながら、森林に関係する事を安全に、楽しく、継続的に続けて行きたいと思えます。

# リレー通信

## 自然に沿った林業を



京都から高速バスで伊那まで通っています。早いもので森林塾が始まってもう五カ月が経ちました。森林塾ではいろいろ教えていただいています。私にとってはロープのアイ加工や九月九

日、十日に教わったトビの使用方や、上手に伐倒するためにはわざと掛けるというのが、一番新鮮な感じがしました。安全に作業するために考えられる、工夫されてきものなんだろうなと思いました。トビというのは単に材木をひっかけて、ちょっと引っ張るという使い方しか知りませんでした。受け口を作る時に、少し小さめに切って、修正しながら完璧と言えるくらいまで仕上げていく、というのも勉強になりました。決してあわてずに一つ一つの過程を丁寧に行っていけば、自然とうまくいくはずなんだと気付きました。

然がいっぱいある田舎にいます。やはり私は気持ちが悪く落ち着きます。高校生の時に、左官屋さんでアルバイトをしていた時も、町の中の現場に行く時の方が、妙にうれしかったような気がしたのを覚えています。魚釣りをしていた頃も、琵琶湖で鯉を釣ったり、近場の川で雑魚を釣っているより、山の中へ入っていく渓流釣りが一番好きでした。四月頃から十一月頃まで行っていたと思いますが、さまざまな新緑の淡い色が、だんだん濃く強くなって、やがていろんな黄色や赤色に紅葉していくのを眺めながら、透き通った川の流れて沿って釣り上がっていくのは、私にとっては結構大きな楽しみでした。たとえば、一匹も釣れなくても、豊かな自然の中で過ごすこと自体が、ある種の大きな満足を与えてくれたかと思っています。しかし杉や檜を植林して、きちんと手入れしていかない山には、どんな新緑も紅葉もほとんどありません。赤土と、赤土色のきわめて脆い岩肌が目に見えて、地下足袋で歩いただけでズルズルと崩れてしまふ植林地を以前、経験したことがあります。現在、日本中にそこまではひどくないにしても、似たような状況の山がたくさんあるので





はないでしょうか。

三重県の海山町にある、日本で一番最初にFSCの認証を受けられた速水林業さんの檜山の写真を見たことがあるのですが、たくさん下草や灌木が生えていて、作業道他には地面が見えませんが、もちろん、十分に間伐されていて、たつぷりと光がさしこみ、非常に明るい森林でした。そしてその檜の植林地と自然林(放置された里山林だったと思います)の植生を調査した結果、植林地の方が種類が多かったと説明されていました。いくら放置されているとはいえず、当然、自然の方が豊かな植生を持っているだろうと思っていたのでかなり驚きました。

私は数年前から自然農というのを学んでいるのですが、お米も野菜も、一般的な

育て方とはかなり違ってきます。できるだけ、それぞれの田んぼや畑を自然のままにしておいて、その自然の中で育てていく、ということだと私は思っています。田んぼにも畑にも、い

ろんな草が一年中生えています。さまざまの虫もいますから、土壌が瘠せていくことなく、いつまでも作物を育てていくことができます。スーパーで売っているような、きれいな、大きなものではないような気がしますが、大変健康的に育っていると思います。

林業も結局は同じことではないかと思うようになりました。杉や檜しか生えていない山より、いろんな植物が育っていて、様々の動物や昆虫などが棲息している山の方が、土壌のために良いのももちろん、植林した木のためにも多種多様の養分が供給されているのではないのでしょうか。もちろん効率は悪くなるでしょうが、そのような針広混交林を育てていった方が、長い目で見れば間違いない山のために良いで

しょうし、これから先そんなに多くの材木が必要になることもないのでないでしょうか。針葉樹が植林されてほとんど手入れされていない山を、針広混交林に造り変える講座をKOA森林塾の通年コースの続きでやってもええないでしょうか。継続可能な林業の見本になるような山造りも、是非、教えただけだとは思いません。

### 樹のコラム

ホオノキ 朴の木

離弁花 モクレン科

モクレン属 落葉高木

日本特産の植物では最大の花と葉をつける樹木です。その花径は、十五センチ。五月から六月に強く甘い芳香のある白色の花を咲かせます。その花と香りは、きつと誰もが一度出逢ったら忘れられないくらい、強烈な印象を受ける樹です。モクレン科の花被片は三数性で朴の木は九〜十二個。内側に六〜九個の花弁状の花被片が付く、外側に三個付く花被片は短い萼状になり、淡い緑色で一部紅色を帯びています。この花の寿命はとても短くて、開花すると雄しべはすぐにばらばら落ちてしまいます。なので、この花に出逢い、まだ雄しべがつい

ていたらほんとに咲きたてに出逢えたことになり。ただ背の高い樹なので、花を真近に見るにはなかなか難しいかもしれません。

この樹は花も大きければ、葉も大きくて長さは二十〜四十センチくらいにもなり、幅十〜二十五センチくらいで、縁は全縁、裏面は白色を帯び、軟毛があり枝の先に集まって付きます。岐阜県飛騨高山の朴葉味噌と言え、ピントくるでしょうか。この葉には殺菌作用があり、お味噌の上に乗せてふたをしておくといいとそう。他には食べ物や包んだら、葉が大きいので食器代わりにされたり、木曾では朴葉もちといつて、枝を付けたままの葉に味噌を入ったおもちを葉で包んだものがあります。おいしいですよ。昔から広く生活の中で親しまれていた植物でもあります。



なり、長さは十〜十五センチの長楕円形で九月〜十月に熟します。この果実の重さで枝がしなるほどだそうです。私が初めてこの樹に出逢ったのは十年以上前になるとおもいます。まだホオノキの存在を知らなかった頃です。山の間を縫うような道を車で通っていた時に、目に飛び込んできた白い花。あんな大きな花があるの？とあまりの大きさにびっくりしたのを覚えています。何かの小説にタイサンボクの花が登場していたことをその瞬間に思い出し、これがひょっとしてタイサンボク?? と思ったのです。そう、思い込みです。それから一年くらいしてまたホオノキに出逢い、じっくり観察できる機会があり、はたと間違いに気付いたのでした。出逢った印象も強烈でしたが、間違えて覚えたことで、より、覚えた樹でもあります。

樹高も三十mくらいになり、直径も最大は四十センチくらいになるそうです。果実は袋果が集まった集合果になります。又樹皮には薬用の効果があり、土用の頃に樹皮を剥いで干し、咳や利尿、つわり、神経性胃炎、便秘などに良いそうです。ホオノキとよく似た同じモクレン科のタイサンボクと言う

樹は、原産は北アメリカで常緑になります。花の大きさは十五〜二十五センチとホオノキよりも大きくなります。他にオオヤマレンゲという樹があります。この樹は本州の関東地方以西、四国、九州、中国に分布しています。花は純白で小ぶりの花をつけます。この花は蕾が卵みたくて下向きに付き、咲き方がとても可愛らしいです。香りはホオノキのような強い香りではなく甘酸っぱいような香りです。

私はホオノキの冬の樹形が美しく好きです。独特の枝ぶり、特に雪が枝に積もっている風景が好きです。冬の青空が良く似合う樹だと思えます。絵本に描かれているような感じの樹だなぁと思うのですが、そう感じるのは私だけでしょうか? 鶯

おわりに  
通年コースも次回はいよいよ最終回の炭焼きです。夜、一杯飲んで、日本の山を熱く語りましょう。

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。  
TEL 0265-70-7065  
FAX 0265-70-7994  
E-mail: sh-sakano@koanet.co.jp  
ki-hayakawa@koanet.co.jp  
携帯:090-4463-0062 (開催日)  
URL http://www.koanet.co.jp